



道小 だより

第588号 2025年6月

藤井寺市立道明寺小学校

やま しい 傘の使い方 校長 吉松 崇



早6月、雨、傘、天気予報のことを気にして生活する日が多くなりますね。今月は、こどもたちへのメッセージです。

「雨の日が多くなる」季節を、「梅雨」という漢字で表しています。なぜでしょう。6月は梅の実ができる季節。梅の実ができるころに、降る雨だから、『梅雨』という漢字を使って表していると、昔から伝えられています。

では「梅雨」と書いて「つゆ」と読むのはなぜでしょう。雨が降ったあと、草花に水滴がたくさんつきます。その水滴を「つゆ」と言います。「梅雨」のおかげで、草花についた「つゆ」を見ることが多くなり、「梅雨」という言葉を「つゆ」と読むようになったと言われています。

雨の日が多いと、傘を使う日も多くなります。雨の日、学校や駅では、人がたくさん集まるだけでなく、傘もたくさん集まってきます。そんなとき、傘を使って、大人でも子どもでもできる「ちょっぴり心が温くなる行動」をしませんか？

たくさん傘が集まると、傘どうしがぶつかることがあります。ぶつかりそうなら「傘をちょっと高く上げて、傘をちょっとななめにして、人をよける」、相手がよけてくれたら「ありがとう」、傘がぶつかったら「ごめんなさい」…、雨の日、傘を通して、人を大切にできる行動をしてみましょう。「人を思いやる」という気持ちが、みんなの心に、1つ2つと増えてきます。

6月は雨が降り、休み時間、教室ですごす時間が多くなります。人が多いと、体や心がぶつかることがいっぱいありますね。相手を思いやる行動や言葉で、6月のじめじめした雨の日でも、みんなは笑顔、温かい気持ちで生活できるようにしましょう。